

5. 資料とりまとめ

5.1 カラフトマスとシロザケの来遊状況について

5.1.1 北海道への来遊状況

(1) カラフトマス

カラフトマスの北海道来遊状況経年比較を図 5.1 に示す。平成 23 年度の北海道におけるカラフトマス来遊数は 553 万尾であり、対前年（731 万尾）比が 75.6%、対平年（H1～22 年平均：953 万尾）比が 58.0%と前年および平年を下回った。

カラフトマスは来遊資源が隔年で変動する特徴があり、平成 15 年以降、奇数年が豊漁年、偶数年が不漁年で推移していた。今年は豊漁年にあたっていたが、平成 15 年以降の不漁年（偶数年）の平均的な来遊数である 645 万尾と比較しても、今年是对同期比 85.7%となっており、平成 15 年以降でもっとも少ない来遊数であった。

【参考】独立行政法人水産総合研究センターさけますセンター発表：平成 23（2011）年さけます来遊状況（第 4 報：10/31 現在）

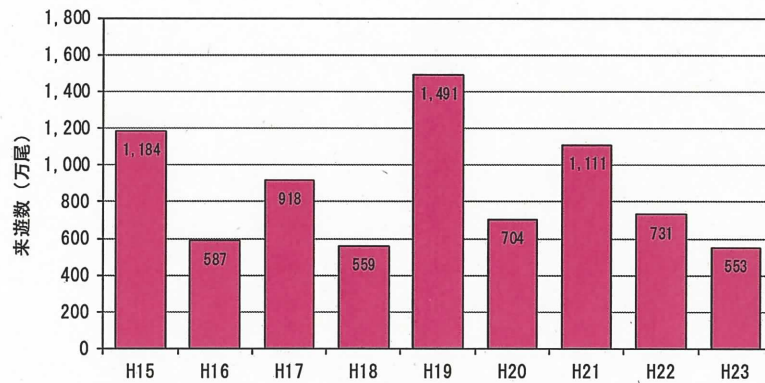


図 5.1 カラフトマスの北海道来遊状況経年比較

(2) シロザケ

シロザケの北海道来遊状況経年比較を図 5.2 に示す。平成 23 年度の北海道におけるシロザケ来遊数は 3,753 万尾であり、対前年（3,975 万尾）比が 80.3%であった。そして、過去 10 年で最も少なかった平成 20 年（3,869 万尾）を若干下回る水準であった。

地域別にみると、日本海側（オホーツクから日本海区）の来遊数は 2,302 万尾で対前年（2,360 万尾）比が 97.5%、太平洋側の来遊数は 1,451 万尾で対前年（1,615 万尾）比が 89.8%であり、平年に比べると太平洋側の落ち込みが大きかった。

【参考】独立行政法人水産総合研究センターさけますセンター発表：平成 23（2011）年さけます来遊状況（最終報：1/31 現在）

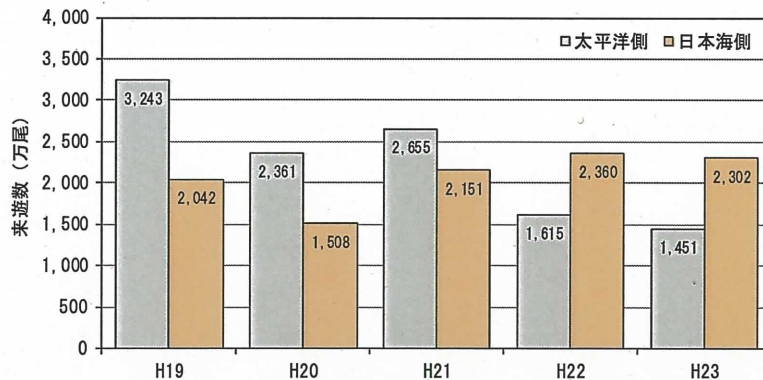


図 5.2 シロザケの北海道来遊状況経年比較

5.1.2 イワウベツ川での捕獲状況

(1) カラフトマス

カラフトマス捕獲数経年比較を図 5.3 に示す。イワウベツ川下流の岩尾別ふ化場におけるカラフトマスの捕獲は、平成 23 年度は 8 月 18 日から 10 月 8 日までの期間で行われ、この期間に捕獲されたカラフトマスは総計 72,831 尾であった*。

前述したとおり、平成 23 年度はカラフトマスの豊漁年にあたり、不漁年であった前年 (47,541 尾) に対する比は 153.2%であった。しかし、前回豊漁年の平成 21 年 (95,909 尾) に対する比は 75.9%、前々回豊漁年の平成 19 年 (85,235 尾) に対する比は 85.4%であり、近年の豊漁年と比較して捕獲数は低い水準であった。

※ (社) 北見管内さけ・ます増殖事業協会への聞き取り調査による (平成 24 年 1 月 25 日)

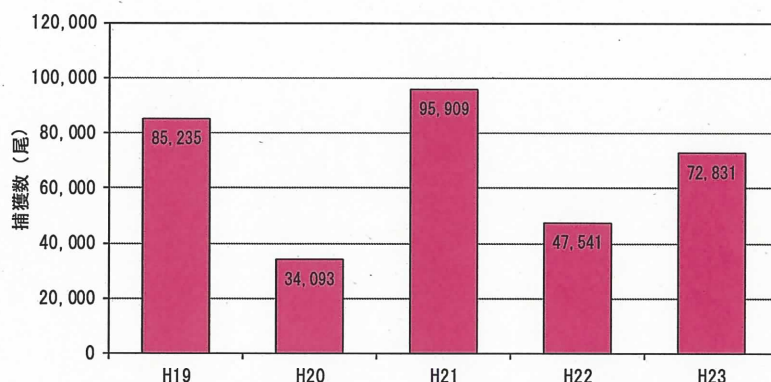


図 5.3 岩尾別ふ化場でのカラフトマス捕獲数経年比較

(2) シロザケ

シロザケ捕獲数経年比較を図 5.4 に示す。イワウベツ川下流の岩尾別ふ化場におけるシロザケの捕獲は、平成 23 年度は 9 月 20 日から 11 月 4 日までの期間で行われ、この期間に捕獲されたシロザケは総計 5,354 尾*であった。

前年 (11,662 尾) に対する比は 45.9%であり、過去 5 年間では平成 20 年 (3,957 尾) に次いで低い水準であった。

※ (社) 北見管内さけ・ます増殖事業協会への聞き取り調査による (平成 24 年 1 月 25 日)

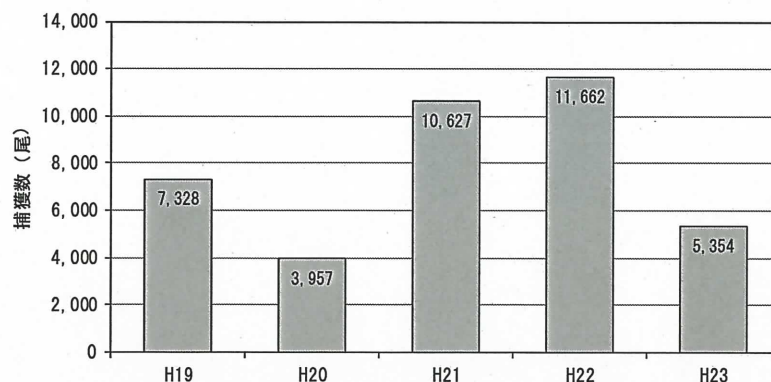


図 5.4 岩尾別ふ化場でのシロザケ捕獲数経年比較

5.2 サクラマスについて

5.2.1 イワウベツ川における過去の捕獲実績

平成 23 年 6 月 24 日に開催された「平成 23 年度 第 2 回河川工作物アドバイザー会議」において、知床財団から配布された資料とその内容に対する漁業者側の見解について整理した。

「100 平方メートル運動の森・トラスト」（斜里町主催）では、生物相復元事業の一環として、1999 年よりイワウベツ川においてサクラマス个体群の復元に取り組んでいる。この取り組みは、同河川にかつてサクラマスが多数生息していたとされる記録をもとに事業を進めている。イワウベツ川における過去のサクラマス捕獲状況について、表 5.1 に示す資料より整理した。その結果を図 5.5 に示す。

なお、このデータに対する（社）北見管内さけ・ます増殖事業協会側の見解は以下のとおりである。

「道内に生息するサクラマスは、オスのほとんどが陸封型（ヤマメ）である。遡上してくるサクラマスは、どの河川でも必ずメスのほうが圧倒的に多い。したがって、イワウベツ川のサクラマス捕獲数についても、メスの比率がもっと多いはずである。この資料におけるサクラマスのオスとメスの比率をみる限り、特に 1950 年代前後についてはカラフトマスと混同している可能性がある。ただし、イワウベツ川にサクラマスが生息していたことについては確かな事実である。」

表 5.1 イワウベツ川におけるサクラマス捕獲数の参考資料一覧

資料名	発行年	発行	内容
鮭鱒捕獲採卵数	1956	北海道さけ・ますふ化場	S13～30年のイワウベツ川におけるサクラマス捕獲記録
さけます捕獲採卵・ふ化放流数	1973	同上	S13～47年のイワウベツ川におけるサクラマス捕獲記録
さけ・ます捕獲採卵・ふ化放流成績	1986	同上	S48～59年のイワウベツ川におけるサクラマス捕獲記録

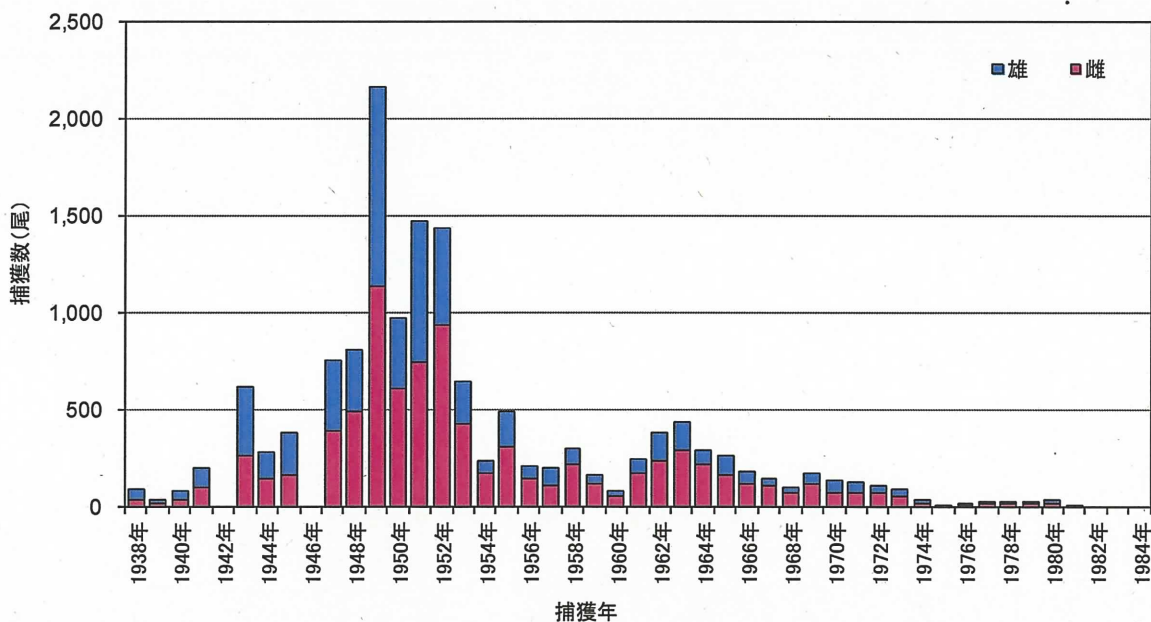


図 5.5 イワウベツ川における過去のサクラマス捕獲数

5.2.2 イワウベツ川水系における放流実績

前述したとおり、「100 平方メートル運動の森・トラスト」（斜里町主催）では、生物相復元事業の一環として、1999 年よりイワウベツ川においてサクラマス个体群の復元に取り組んでおり、各支流に稚魚や発眼卵の放流を行っている。過年度からの放流実績は表 5.2 に示したとおりである。また、本年度の放流実績詳細*は以下のとおりである。

※知床財団への聞き取り調査による（平成 24 年 2 月 29 日）

■ピリカベツ川

本 流 : 標高 140m~160m 間

右股支流 : 標高 150m 地点

放 流 数 : 合計約 67,000 粒

■盤ノ川

本 流 : 標高 140m~160m 間と 190m~220m 間

放 流 数 : 合計約 67,000 粒

■白イ川

本 流 : 標高 150m 地点

右股支流 : 標高 170m 地点

放 流 数 : 合計約 67,000 粒

表 5.2 サクラマスの稚魚と発眼卵の放流実績

放流実施年	幌別川		イワウベツ川水系		備考
	稚魚	発眼卵	稚魚	発眼卵	
1999 年(H11)	5 万	3 万	5 万	3 万	稚魚は春、発眼卵は秋に放流
2000 年(H12)	—	10 万	—	7 万	
2001 年(H13)	—	5 万	—	5 万	
2008 年(H20)	—	—	—	15 万	10 月 28 日に放流
2009 年(H21)	—	—	—	20 万	11 月 2 日に放流
2010 年(H22)	—	—	—	10 万	10 月 24 日に放流
2011 年(H23)	—	—	—	20 万	10 月 25 日に放流

なお、生物相復元事業の一環として、知床財団が本年度実施したサクラマス産卵状況調査の結果を
図 5.6 に示す。

8月27～28日実施の潜水観察では、白イ川の赤イ川合流点から約1.2km上流付近にてサクラマス親
魚1尾と産卵床1床が確認された。また、その他にも白イ川とイワウベツ川中流域で合計6尾（遺骸
含む）のサクラマス親魚が確認された。



図 5.6 サクラマスの産卵状況調査結果

(知床財団提供資料：未発表)